

## 1. 平成3年度国際研究企画検討会の概要

熱帯農業研究の効果的な推進を検討するために平成3年度において“国別現状評価とTARC国際共同研究の視点”に関する検討を平成4年1月10日、1月20日、1月29日に行った。

平成2年度にはTARCが行う海外研究の展開に関する熱帯農業各地域を総括的に通覧した場合の各地域の農林業動向、農林業技術動向等からみた重要研究問題等を検討した。そこで平成3年度には現地調査を実施した国又は予定している国について 1) 国別の現状評価と戦略的アプローチ、2) TARC共同研究サイトの戦略的配置に関する検討を行った。

調査対象国はベトナム、ミャンマー、バングラデシュ、インドネシア、パキスタン、シリア、トルコ、ケニア、ジンバブエ及びブラジルとした。

### 1) 国別の現状評価と戦略的アプローチ

熱帯地域では農林業を基幹産業とする諸国が多数存在し、農林業技術の動向がその国の経済に与える影響は著しく大きい。より前進した農林業技術の確立のための研究ニーズは広範囲に亘り、しかも多様である。各国の熱帯農林業研究の現状を評価し、TARCが実施する共同研究の戦略的アプローチを断えず検討することは極めて重要である。この目的のために、①政治・経済・民生の動向、②農林業動向、③農林業技術動向、④NARSの現況、⑤研究ニーズ、⑥共同研究への戦略的アプローチ、⑦共同研究実施上の問題点に関して上記10カ国について検討した結果を本研究資料に示した。調査や分析の不十分な点も多々あるが、今後の前進の一步とした。

### 2) TARC共同研究サイトの戦略的配置

#### (1) 現状

平成3年度において長期在外研究員は37名である。東・東南アジア諸国5カ国タイ、マレーシア、中国、フィリピン、インドネシアとブラジルにはNARS等又は大学に研究員を派遣し、共同研究を実施している。またCGIARの6機関-CIAT, ICARDA, ILRAD, IITA, IIMI, CIP（中断）一に対してI/Iベースで共同研究を実施している。その他拠出金による派遣としてIRRI, ICRISAT, 一般派遣としてIRRI, FAOがある。

本年度インドネシアにおける共同研究が開始されたが、現状では派遣国が限定されタイ、マレーシアに集中している。集中によって得られる長所は評価されるが、研究実施上必ずしも拠点的功能を十分に発揮しているとは言い難く、累積型の集中になっている。これはTARCの歴史的背景から生じているが、より適切な研究展開を図り、TARCの目標を達成するために在外研究員のより戦略的な配置について検討が必要である。

## (2) 今後の展開

TARCの共同研究サイトとしては、熱帯・亜熱帯の農林業生態系を代表する地域において多様な専門分野から技術研究等のニーズが大きく、共同研究実施の効果が現われ、しかも研究環境及び生活環境が派遣研究員に受け入れられるものであることが重要である。

このような視点に立って、本年度の上記の10カ国に関する調査の結果から、今後の共同研究が有望な国としてベトナム、ミャンマー、パキスタン、インドネシア及びブラジルが指摘され、またアフリカの中でも共同研究の可能性の高い国としてジンバブエ、ケニアが検討された。

したがって、近く共同研究が開始されるパキスタン農業研究会議(PARC)研究機関、インドネシア農業研究開発庁(AARD)の研究機関、中国農業科学院水稻研究所(杭州)やILCA(エチオピア)、CIMMYT(メキシコ)への展開は適切な方向に進んでいると評価される。

今後派遣が可能な国として現在まで長期間に亘って共同研究が実施されてきたブラジルへの新しい展開、開始されたインドネシア及びパキスタンへの充実強化とともに、派遣が有望なベトナム、ミャンマー、バングラデシュ及び強い要請のあるアフリカの稲研究機関である西アフリカ稲開発協会(WARDA コートジブワール)等への共同研究の実現へ向かって一層詳細な検討が必要である。

なおアフリカに関しては研究及び生活環境からみてアフリカにある地域重視型IARCsへの対応が当面は適切であると考えられる。